

# 慶應-イリノイ交換留学研修プログラム (KIEPO) 体験記

稲垣絵海 (平成19年入局) Emi Inagaki (2nd year resident)

## 1 はじめに

私は教室主催の慶應-イリノイ交換留学研修プログラム (KIEPO program) に参加し、2008年8月25日から9月5日までの約2週間、イリノイ大学 (University of Illinois: 以下UIC), Eye and Ear Infirmaryの眼科部門で臨床実習を行いました。

## 2 目的

KIEPOプログラムの目的は ①アメリカの眼科医療をレジデントの視点から見て比較する事 (臨床システムの違い、レジデントの教育システムの違い、また疾患層の違いなど) ②同世代のレジデントと交流 ③医学英語を学ぶ、ことです。

## 3 実習の内容

### 一般外来:

UICの研修医は主体となって患者さんの診察を行い、常在している上級医に相談し、必ずフィードバックされていました。いわゆる一般診療ができるようになる事、そして専門的な治療が必要な場合にいつ専門外来への紹介をしたらよいか、といった判断力を養う場、そして上級医への症例のプレゼンテーションとアセスメントの仕方などを養う場として機能していました。

### 専門外来:

イリノイ大学の眼科は角膜、緑内障、網膜、小児、ぶどう膜・神経眼科、眼窩形成の6部門に分かれ、広い地域から紹介される稀な病気を学ぶことができました。

### 手術:

手術の内容としては角膜移植を12例、まだ日本では稀なバルブを用いた緑内障手術を4例、硝子体手術を5例、小児斜視手術3例、眼窩形成3例と多くの症例を見学できました。角膜移植およびシャントおよび硝子体手術と3領域におよぶ術者が担当した穿孔性眼外傷の1例は圧巻でした。

### カンファレンス・教育:

モーニングレクチャーや全体のカンファレンス、眼底造影検査カンファレンスおよび角膜カンファレンスがありました。研修医は各学年6名おり、最初の3年間で眼科の専門分野を数か月ごとにローテートします。3年間の研修医を修了した後に専門分野を深く学ぶ専修医 (フェローシップ) プログラムのシステムをとっています。

## 4 感想

私にとって大学病院での研修をし、ある程度各分野に関する知識を得た専修医の2年目の秋というのは好機でした。2週間という非常に短い期間ではありましたが、多くのことを学ぶことができました。また、慶應大学とUICの教育システムのそれぞれ長所、短所を知ることが出来ました。個人的にはUICの研修医が各専門分野を数か月ごとに回るローテーションシステムをとっていること、朝の講義の内容がより多岐にわたること (眼病理の講義もある)、研修医修了後に専門科を学ぶフェローシップに多くの分野があることが魅力的に感じました。同世代のUICの研修医が症例提示をする機会が多いせいか、非常に要を得た簡潔なものであることに驚きました。今回の実習によりまた、慶應大学での研修プログラムに還元できる事柄や自分への課題を知ることが出来たとともに、海外に同世代の眼科医の友人を多くつくることができ、将来に生かせるかけがえのない体験ができたと思います。

## 5 さいごに

最後になりましたがKIEPOへの参加に際し、坪田教授、UICのDimitri Azar教授をはじめ多大なる御協力をくださった関係者の皆様方に誌面をお借りして感謝申し上げます。今後もKIEPOが継続し益々発展する事を心から願います。



坪田教授、櫻村准教授とイリノイ大学レジデント

男性グループとラボメンバー



日本でのイリノイ大学レジデントの歓迎会

Azu Suzuki, Kazuyo Terada and I were given the opportunity to participate in the KIEPO program for two weeks at the University of Illinois Chicago's Ophthalmology and Visual Sciences course, which proved to be a valuable experience.

We observed Prof. Azar's surgeries, as well as attended his cornea conferences, which were entertaining, as well as educational. In the outpatient clinic, we were able to observe a variety of cases within the different subspecialties including cornea, retina, glaucoma, ophthalmoplasty, pediatric ophthalmology, uveitis, and neuro-ophthalmology. We also observed interesting surgeries, including penetrating and endothelial keratoplasties. I observed a combined surgery for the cornea, retina and glaucoma that I had not been able to see in Japan previously. This involved a simultaneous penetrating keratoplasty, glaucoma shunt surgery and vitreoussurgery.

In addition, the residents at UIC were extremely kind and accommodating. Not only were they with us during the day, but they also often took us out for dinner, among other things. We certainly appreciated their gracious hospitality. We felt that the doctors at UIC also kindly welcomed us to observe procedures and surgeries as we pleased. Although it was a very short two weeks, we were able to experience many things.

	メンバー	日程
第一グループ	稲垣絵海、鈴木亜鶴、寺田和代 (平成19年入局)	8月24日から9月7日
第二グループ	小野岳志、伴紀 充、福井正樹、渡辺一弘 (平成19年入局)	9月14日から28日